

牛久：学校周辺に見る自然

第65号 ひたち野西近隣公園

2012年1月28日発行

＜ 冬の野鳥観察 ～ 4. 漂鳥または留鳥 ＞

水辺公園、冬の野鳥観察シリーズ、最終号は、漂鳥（ひょうちょう：夏は山地、冬は平地というように国内を移動する鳥）または留鳥（りゅうちょう：一年中、同じ地域にすむ鳥）といわれている鳥たちです。



まずは、第12号でも紹介したシジュウカラ。右の写真のように、胸から腹にかけての黒いネクタイのようなものが目立ちます。昆虫や、草木の種子や実を食べます。

胸から腹にかけて、黒いネクタイもようが目だつシジュウカラ。草木の種子や実を食べます。



次は、枝のかげを盛んに動き回って、なかなかうまく写真に撮れなかったメジロ。木の実や昆虫も食べますが、この時期は、庭や公園などで、ツバキやサザンカなどに花の蜜を吸いに来ているのをよく見かけます。「チー、チー」などと鳴き、黄緑色の体と目の周りが白いのが特徴。この日は、上のシジュウカラといっしょに群れていました。

黄緑の体、目の周りの白が特徴。冬にはツバキなどの花蜜を吸うメジロ。



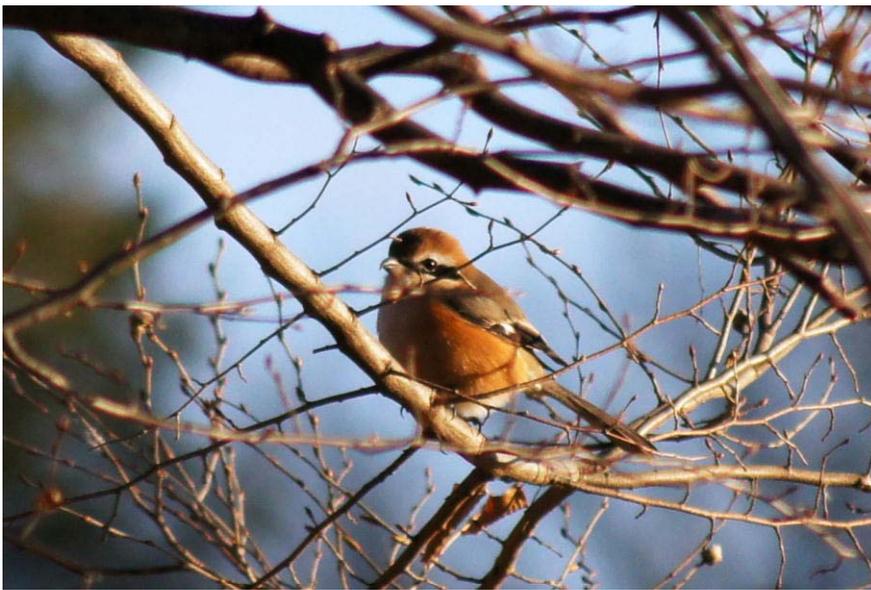
こちらは、ホオジロ。ほおが白いのでついた名。となりの千葉県では、「県の鳥」に選定されています。昆虫や草の種子などを食べるそうです。この公園には、よく似たカシラダカもいますが、こちらは冬鳥(22年度52号を参考に)。

千葉県の鳥、ホオジロ。その名の通り、ほおが白い。



枝にまぎれると、見つけにくくなってしまいうキジバト。

さて、この木の中には、**キジバト**がかくれているのですが、どこにいるか分かりますか？
見つけやすいように、ちょうどまん中あたりにしましたが、枝の色によく似て、分かりにくいですね。22年度第52号でも紹介しましたが、首に青と黒のしま模様もようがあつて、1, 2羽かんたんで行動することから、ドバトとは簡単に見分けることができます。「デデーポーポー、デデーポーポー」と鳴いているのはこのハトです。



昆虫や小動物をつかまえて食べるので、くちばしが鋭いモズ。右は、「はやにえ」にされたケラ(2010. 12. 7撮影)。

次は、**モズ**。昆虫やカエルなどをつかまえて食べる肉にくしよく食するどいの鳥なので、くちばしも鋭いですね。他の鳥の鳴きまねをするので、ついた名が「百舌もず」。右の写真は「はやにえ」で、モズが秋にとらえたえものを木の枝などに刺さすすのですが、「自分のなわばり主しゅちやう張しやうのため」とか、「えさの少ない冬に食べるため」とかいろいろ言われ、まだその意味は、分かってないようです。



最後に「空飛ぶ宝石」**カワセミ**。大きな頭と長いくちばし、オレンジ色の腹と金属光沢のある青い背中せなかが特徴とくちやうの、美しく人気の高い鳥。水中に飛びこんで魚や水生昆虫すいせいこんちゆうを捕まえます。

【理科支援員 宮内】

「空飛ぶ宝石」とも呼ばれ美しいカワセミ。右は小魚を捕えている。